統一思想に基礎した純潔学の定立
-純潔学の教育方向と内容を中心に-

金桂正/鮮文大純潔学科

目次

I. 問題の提起
II. 純潔観に対する歴史的変遷
1. 伝統的純潔論理
2. 現代社会の純潔に対する多様な見解と論理
3. 純潔用語使用に反対する人たちの論理と問題点
III. 純潔に対する見解
1. 純潔観に対する論議
2. 統一思想に基づいた純潔観
IV. 純潔学の教育方向と内容
1. 純潔学とは?
2. 純潔学の教育方向と内容
3. 純潔学の教科課程編成と補完
V. 結び

I. 問題の提起

少なからず論議を経て1999年に純潔大学が創立されてから、いつのまにか7年近い歳月が経った。苦労しながら教科課程を編成し、学生たちを募集して授業を進行して来た。創立初期には女性を中心に純潔大学の創設に対する反対も多かったが、困難な過程を乗り越えながら、学生募集と授業そして卒業生の輩出は続いている。

その間、学生たちに何を教えなければならないか、卒業生の進路はいかなる方向にならなければならないかに関する論議と、それを解決しようとする努力が続いて来た。純潔大学に所属した教授たちには、学生たちを指導することに劣らず純潔学の体系を定立することも大きい課題に違いなかった。「純潔学とは何か? その思想的背景は何か? どんな教育内容を入れなければならないか?」など、歴史は浅いが一つの学問としてのフレームを定立する一歩を踏み出さなければならないのであった。統一思想と純潔を連関をつけた研究があったし、純潔学を定立して見ようとするいくつかの試みがあった。

筆者は純潔大学の創設のための行政を担当しながら、初期の教科課程を作成し、運営に尽力した。純潔学と関わると考えられる多くの関連学問分野を探索しながら純潔学の総論と各論形式で講義案を編集し、純潔学原論の講義を担当して来た。文サンヒ氏は純潔を主な主題として扱った研究で最初に博士の学位を受けた人である。彼女は学位論文で純潔学の基礎として、純潔大学を創設するようにした文鮮明先生の純潔学に対するビジョンと純潔学に関わる主要な教えを紹介した。そして鮮文大学に設立され、運営される純潔大学の使命と目的、教科課程と将来の課題などについて検討した(1)。彼女はまた純潔学の理念と教育内容に関する論文を発表した。その論文では純潔学の特性と理念内容を扱った。その中で、純潔な人間完成のための教育、純潔な家庭完成のための教育、純潔文化の人類共同体のための教育に分けて論じた純潔学の内容を扱った部分がある(2)。李ジェイルは純潔学の基礎としての統一思想と純潔学の定義及び性格そして純潔学の領域と構造を主な内容として扱った論文を発表した(3)。そのうち10ページにわた

って純潔学の性格を扱った部分は独創的な領域だと考えられる。
　大谷明史(Akifumi Otani)は純潔教育の理念に関して整理しようと努力した。しかし純潔教育理念というよりも純潔教育の内容と見たほうが妥当な論文であると考えられる。彼は純潔教育の理念を神の愛と性規範の意義、愛の成長、真の愛と偽りの愛、祝福による家庭の再建、宇宙法則に対応する規範に関して説明した。(4)概して『頭翼思想時代の到来』(5)にある内容を取りまとめて整理した論文だと考えられる。
　このように純潔学に関する研究業績はごく少数に過ぎない。まだ「純潔学とはこれだ」と、何かを出すには歴史があまりにも短い。純潔学を定立するための課題は多い。しかし一つの研究で多くのことをすべて扱うのは容易ではない。そこで本研究では「純潔学とは何か?　その教育方向と内容はいかにあるべきか?」に対する答を捜そうと思う。このような研究質問に対する答を捜すために、純潔に関する既存の論議を考察し、既存の研究を参照して純潔の概念を定立して、その定立された概念によって純潔学の教育方向と内容、教育体系(教科課程)に関して論ずる、小さな試みをしようと思う。

II. 純潔観に対する歴史的変遷

　この項目では一般論的な純潔に関する多くの論議が歴史的にどのように移り変わって来たのかを紹介して、純潔という用語の使用自体をこれらの主張とそれに対する問題点を考察する。

1. 伝統的純潔の論理

　韓国社会では、男女七歳にして席を同じくせずといって、幼い頃から男は女を遠ざけて文字の勉強に専念し、女は身と心を端正にして貞操を生命と同じく重要に考えてきた。このような韓国の伝統的な純潔観は女性にたいして、一方的に盲目的に強要されたものである。しかしそういう純潔観は朝鮮後期に形成されたに過ぎない。高麗朝から朝鮮前期の両班女性たちの生活は朝鮮後期とは違い開放的で活達だったが、未婚男女間の性関係は倫理道徳的に厳格に規制されていたようだ。しかしこのような開放的で活達な両班女性たちの生活は朝鮮時代、儒教倫理の強化によって、徐々に男女間の規制がひどくなり、消えて行った。元来我が国は伝統的に各村ごとに男女が一所に集まって祭を行い酒を飲んで歌と踊りで、楽しい時間を過ごす事が広く行われた。しかし儒教倫理の強化によって朝鮮開国300余年が経った18世紀末ごろになると、男女に対する規制がますます強化されて、朝鮮の女性たちは忍耐し、従順に屈従する女性像に変わって行った。
　そのようにせしめるのに強力に作用したのが内外法である。この法は両班女性たちにだけ適用されて庶民女性たちには適用されなかった。内外とは、男女間に守る礼儀であり、相互役目と活動空間を分離する礼の基準であった。ところでこのような内外法が朝鮮初期に頻繁に発生した姦通及び近親相姦を規制するために作られたために、法の適用においては男女間の平等が無視された。姦通や近親相姦は男女によって行われるにもかかわらず、そういう事を防止するために女性のみを取り締まる女性規制法と化した。この内外法が波及して両班家の婦女子たちは通りに出る事は珍しくなった。男女の接触を阻むために、両班の婦女子たちの外出を強制的に禁止したから、女性を一方的に家に閉じこめるようになった。このような内外法によって、朝鮮時代の男女は幼い頃から徹底的に区別されて育った。家の中でさえ男女有別が徹底的に守られた。
　両班女性たちが外出することはほとんどないが、たとえ外出する事があっても顔を覆うチャンオを身に着たり輿に乗るようにした。歩く時は男は右側に、女は左に歩かなければならなかった。こんな風土の下で未婚男女間の性関係は想像もできなかった。特別に純潔にしなさいと言わなくても、耳にたこができるように、女は身と心をきれいにし

て、服を端整に着なければならないと聞いたはずであり、徹底的な規範の中に閉じこめられている両班家の妻子といかにして性関係を結ぶことができようか?　したがって未婚男女間では、男が女より外出や生活面でずっと自由だったことは事実であるが、それでも自由に性関係を持つことができる社会的環境では全然なかった。すなわち女性の性を徹底的に規制する生活規範によって、男性も純潔を守らざるを得なかったのだ(6)。

そのような意味で朝鮮時代の純潔観は規範的で法的制度的な純潔観であり、女性にたいして、より苛酷で一方的で盲目的な純潔観であり、家父長的な純潔観だと言える。女が純潔であれば、家父長である夫の純粋な血統を引き継ぐ子孫を生むことができるからである。しかし結婚した以後の男女の純潔観はまったく一方的で不平等であった。男はめかけを持つことが可能だったし、キーセンたちと交わって不倫しても許された。それに比べて、女は主人に対する貞節を守らなければならなかったし、夫が死亡しても再婚が禁止されたし不倫は想像さえできなかった。したがって結婚以後の両班女性の純潔観は女性に対して一方的で盲目的であり、女性は死ぬまで禁欲的な生活をしなければならなかった。

2. 現代社会の純潔に対する多様な見解と論理

大部分の文明国家では、20世紀前半までは性倫理として純潔の大切さが普遍的概念として受け入れられていたようである。アメリカの場合、1950年代までは大部分の市民たちは一般キリスト教的倫理観によって勤倹節約して勤勉誠実するように働いていたし、一夫一妻制下の家庭生活は睦まじかった。ところが1960年代と1970年代の性解放革命の影響によって、性倫理面でも既存価値観とは全く違った性の自由化方向に変わって行った(7)。性教育も価値観中心教育より避妊中心教育が強調された。そしてその影響は急速に全世界的に拡散して行った。

韓国では、1980年代までは純潔教育の大切さを強調する論文が見られる(8)。その頃には学校現場で性教育を純潔教育と呼ぶ傾向があった。もちろんこれは性教育を、婚前女性が処女性を保護するために身体を慎んで過去の道徳的な線から女性が逸脱しないように教えた消極的な教育水準をそのまま反映した側面もある。(9)

しかし今日では純潔に関する論文は統一思想と関わるものを除いて、純潔の大切さより純潔とは違う方向で性教育をするとか(10)、「純潔イデオロギー」といって、純潔という用語自体が女性を甚だしく抑圧する用語であるとみて、純潔という言葉自体を使わない主張が多い(11)。このような主張は、筆者が1999年某TV放送の対談番組に出演した時、女性を代表して出た女性もそのことを強く主張した。

今日、性が開放されて、女権が伸張され、純潔が女権を制約するとされながら、純潔に対する賛否論争が展開されるのである。純潔に反対する側では、過去において盲目的純潔と一方的純潔によって性が抑圧され、性的不平等が招来され、それにより女性が男性に無視されたり性暴行を受けるなど、さげすみを経験したというのだ。また一方的な純潔論理が男性中心の二重的性倫理はもちろん二重的性文化をもたらしたというのだ。また純潔が性器中心的な身体のある部分に限っている純潔観によって、性暴行にあった女性が純潔喪失と認識し、二重的な苦痛を経験しているだけではなく、性暴行にあっても非難を浴びるのが恐ろしくて申告さえできない場合が多い。またそのことを利用して持続的な性関係を要求するとか脅迫をしたりする。このような理由で純潔の用語をはなから使わないと主張する人たちがいる。さらに純潔イデオロギーだと言って、まるで冷戦論理のような性の対決や女権伸張次元に論理を飛躍させたりするのである。

3. 純潔用語使用に反対する人たちの論理と問題点

女性界の一部の人たちが純潔という用語を使うのを反対する理由は大きく四種類に分

けることができる。第一に、女性にだけ純潔を一方的に強要して来た二重的性倫理、性器中心的概念で不平等な歴史的背景を持つという。これは家系相続と血統の純純性のために、女にだけ純潔と貞節を強要して性的抑圧と不平等を生むようにしたというのだ。第二に、純潔は家父長的文化を強化させて女性の性に対する所有と統制の権限を男性に付与したというのだ。第三に、朝鮮時代の女性に一方的に強要されて来た純潔と貞節の概念が、今日男性中心的な二重的性文化に影響を及ぼして、淫乱退廃文化が栄え、性暴行と未婚母の堕胎などが深刻な社会問題として、もちあがっているというのだ。第四に、純潔意識は性暴行などで被害を受けた女性がむしろ社会の耳目によって非難を浴びるなど、二重的な苦痛にあううえ、そのような点を悪用して加害者が被害者を脅かしたり性暴行を助長しているという。そのような理由で純潔という用語自体を使わないというのだ(12)。

純潔という用語を使わなかったら、性的抑圧が消えて性的不平等が解消され、両性平等の性文化が造成され、健全な性倫理が造成されるのであろうか? 一部女性界が主張する性的主体性と性的自立権、性的平等権が保障され、性倫理道徳が自ずから確立されて、フリーセックス、性暴行、未婚母、堕胎、家庭崩壊などが解決されるのであろうか?

このような社会問題は純潔という用語を使って起きたのではなく、純潔という性道徳倫理が地に落ちたからである。これは純潔という用語をほとんど使わないでいるアメリカや西ヨーロッパなど先進国社会において、性的主体性、性的自立権と性的平等権が他の国より保障されていても、性暴行、未婚母、堕胎、青少年問題、家庭崩壊などで深刻な困難を経験している。

結局、純潔という性倫理を排除した状態での性的抑圧と不平等に対する性的自立権と平等権は、男性中心的な二重的性文化を根絶するという意味を通り越して、性の自由を無分別に享受するというのではないか? また性的自立権と平等権の倫理的内容が何であり、倫理道徳的限界が何であるか、不明であり、性暴行や売春など道徳的に指弾受ける内容ではないかぎり、性関係は倫理の問題ではなく選択の問題であると見るのだ(13)。

ところで先に言及したTV対談番組で、純潔に賛成する討論者4人の属した団体はもちろん、どの純潔運動団体においても、純潔に反対する側が主張している「一方的で男女不平等な純潔」概念を使う団体はないということが分かる。純潔用語使用に反対する人たちは、過去の女性抑圧的で不平等に悪用されて来た純潔に対する固定観念に捕らわれて、人間尊重の精神を土台にした両性平等な純潔観を歪曲しているのだ。このように男女が共に純潔を守る両性平等な純潔観は、実は一部女性活動家たちが憂慮している問題点が単に杞憂に過ぎないと言っている(14)。

したがって両性平等な純潔観は、女性に一方的に強要して形成された男女差別と性的不平等を根本的に解消させ、男女性平等を実現させ、家父長的文化から相互尊重する夫婦中心の家庭文化に定着されるであろう。両性平等な純潔観は、男性中心の二重的性倫理と二重的性文化を根本的に崩すはずであり、長期的に男女ともに確固たる純潔意識が定着するようになれば、性暴行やフリーセックス、未婚母、堕胎などの誤った性行動が根絶されて、淫乱退廃文化が自ずから消滅し、健全な性文化が形成されるであろう。

III. 純潔に関する見解

純潔に関する見解は論者によって非常に多様である。この中の代表的な純潔観を概観し、続いて統一思想にもとづいた純潔の概念を整理して見よう。純潔概念に関する論議が少し長くなるのは、この概念によって純潔学の定義が下されてその教育方向と内容が決まると思われるからである。

1. 純潔観に対する論議

(1)辞典的意味の純潔

純潔の辞書の意味は、①雑なものがまじらずきれい、②心に私欲邪念のような汚さがなくきれい(15)、または①心に少しも汚さがなくきれい、②異性との肉体関係がなくて身体がきれい(16)となっている。すなわち辞書の意味は異性との性的な関係がなくて、心と身体がきれいであることを意味すると見られる。

純潔にあたる英語単語はInnocence(汚さがない状態)、Purity(心の無傷状態)、Chastityなどをあげることができる。Chastityは法に反する性的な行動を一切しないことであり、姦通しないこと、童貞や処女性を守ることを言う。しかし欧米ではSex Educationはあっても Chastity Educationはない。これは性教育が女性の処女性尊重や姦通防止よりずっと広範な人間教育ということを意味する(17)。

(2)朴ジョンシンの純潔観

改新教牧師である朴ジョンシンは、男女の性倫理として、純潔概念ではない宗教的献身と道徳的純粋性を強調する言葉として純潔を言及して、その標本として旧約のヨセフの生を純潔な生であると示した(18)。もちろんキリスト教では聖書を根拠にして男女の純潔を強調する。彼らは純潔誓約式を通じて「真正な愛は『その時』まで長く堪えること」と言いながら「結婚式をあげるその日まで性的に純潔を守ることを誓約」する。これは聖書に「自分をきよく守りなさい」(テモテⅠ5:22)という聖句と「からだは不品行のためではなく、主のためであり、主はからだのためである。・・・・・・あなたがたは自分のからだがキリストの肢体であることを、知らないのか。それだのに、キリストの肢体を取って遊女の肢体としてよいのか。断じていけない。・・・・・・しかし不品行をする者は、自分のからだに対して罪を犯すのである。」(コリントⅠ6:13-18)という聖句よって純潔を守って来た。聖書は夫婦ではない男女がお互いに性的関係を結ぶ事を禁じて婚前純潔を強調した。聖書はまた結婚した以後にも純潔を守ることを明示している。「女と姦淫を行う者は思慮がない。これを行う者はおのれを滅ぼし、傷と、はずかしめとを受けて、その恥をすすぐことができない。」(箴言6:32-33)。キリストは「だれでも、情欲をいだいて女を見る者は、心の中ですでに姦淫をしたのである。」(マタイ5:28)と言って精神的純潔を強調した。出エジプト記20:14には「姦淫してはならない。姦淫する者は石で打ち殺しなさい」とも言っている。

朴ジョンシンは、異性交際をしながらも誘惑を早期に遮断して純潔を守るのに役に立つ何種類かの原理を提示した。すなわち、①自らを貴く感じる姿勢が必要だという「高貴さの原理」、②神様も愛する私を私も愛さなければならないという「自我形成の原理」、③人ごとに差があるように男女間にも差があるものと決まっていたら、その差をよく認識して行動しなければならないという「差異の原理」、④性的な誘惑は段階的に進行するので早期に遮断しなければならないという「進行の原理」がそれだ(19)。朴ジョンシンの純潔観を通じて、改新教が主張する純潔観の一面を見られるが、あまりにも聖書の聖句にかまけるようだ。

(3)具ソンエの純潔観

性教育講師として多くの活動をして来た具ソンエは、最善をつくした真実と誠実にかなった出会いであったか否かによって、純潔と貞操は計られなければならないと主張する。女性遍歴の多い男性が生息子をよそおって結婚を約束しながら、楽しむために女性を誘惑したらその男性は純潔ではないというのだ。一方、長年のつき合いの中で信頼した男性と結婚を約束して性関係を持った女性が、真実で真面目な関係を努力した中で振

られたら、その女性は純潔だと見なければならないと言う。愛の主な内容である真実と誠実に結合した性関係ならば、純潔な関係と見なければならないというのだ。そして純潔は良いことであるが、強要するのではなく、主体的に守ることであると言いながら、女性にだけ強調するのではなく男女がもとに大切に守っていかなければならないと強調する(20)。

この場合、真実とか真面目に愛したと言えば良いのであって、純潔という概念をとても広くまたはとても寛大に扱ったように見える。

(4)徐カプスの純潔観

タレントである徐カプスは、自分なりの純潔観を次のように堂々と明らかにする。彼女は私たちが通常使う言葉の「男性が童貞を失った」、「女性が純潔を失った」と言う表現を通じて、男性の純潔は面倒なことであり、女性の純潔は必ず守らなければならない生命のような感じがすると言う。愛する人と会う瞬間ごとに、至高至純な感情で対するのがすなわち純潔だと強弁する。ある人との愛が終わって他の人と会った時も、真心と信頼にあふれた愛ができたら、やはり純潔な愛になることができるというのだ。反対に、ある人と会った時、精神的な交流はさておいて肉体だけ貪るとか、その人に最善をつくさなかった時、純潔ではないと言わなければならないという。それで男性遍歴が少なくない方だった彼女が、自分の愛は毎度初恋だったし、純潔な愛だったというのだ。セックスを共にした相手の数が多いと言って、「紊乱だ」とか、「純潔ではない」と言っては、矛盾だというのだ(21)。しかし性的相手を随時に変えても、その時、誠意をつくすだけで純潔だと主張することは、度をすぎた自己の合理化ではないかという疑問が起きる。

(5)李ジェホの純潔観

青少年純潔活動家である李ジェホは女性に要求される一方的、盲目的禁欲的な純潔の概念ではなく、人間の尊厳性を基本にした両性平等な純潔概念によって男女が共に純潔を守ることであると見た。その純潔概念は真に相手のために責任を負う人間尊重の精神を土台にすることであり、男女を相互に尊重する男女の性的平等化を実現することができる概念であるというのだ。またこのような真の純潔は、盲目的や禁欲的な純潔ではなく、本当に愛する人に会うまで人格を成熟させて自分の未来を準備しながら忍耐して待つ知性をいうとして、それは禁欲ではなく、真の愛の実現のための明らかな目的があるのだ。外形的に純潔を意味する時は、結婚の前に異性との性的な関係がなく身と心がきれいな状態を意味して、結婚後には配偶者以外の人とは性関係を持たないことをいうと見ている(22)。

(6)文サンフィの純潔観

純潔大学教授である文サンフィは純潔の概念を狭義的概念、広義的概念の二つの概念に区分して説明しているが、その要旨を取りまとめれば次のようだ。第一に、狭義的純潔概念とは、本然の人格を完成するために男女がそれぞれ精神と肉体的に純粋できれいな状態で、ただ一人の結婚した配偶者と人格的な性関係を結ぶことだとした。第二に、広義の純潔概念とは、本然の人格を完成するために社会的文化的環境のすべての価値領域で人間の存在目的を成すための純粋で正直な道徳的倫理的姿勢と態度をいう。

それでは統一思想的観点では、このような多様な純潔観をどのように理解して正しい純潔観、純潔な生をどのように提示することができようか？　まず統一思想の創始者である文鮮明先生の純潔に関するみ言を考察することから論議を始めようと思う。そして

多くの論議を総合して筆者なりの純潔観を提示しようと思う。

2. 統一思想に基づいた純潔観

(1)純潔と貞節の意義と大切さに関するみ言(23)
統一思想の創始者である文鮮明先生は、純潔と貞節の大切さに関して数えきれないほど多く語られた。その中でいくつかを取りまとめて見る。(24)

「世の中に数多くの男性たちがいても、わき見をしてはいけません。どのような男性でも、私たち統一教会の女性を思い通りにすることはできないのです。危急の時にはみんな命を断つか、刃物で相手の腹を突き刺して殺すか、二つのうち一つをしろというのです。わかりますか。貞節は命よりもっと尊いものです。」(25)

「男性も貞節を守らなければならない時が来ています。男性が貞節を守ることができなければ、その一門がみ旨の前に重罪を犯すようになるのです。大臣だといっても、浮気をしてもいいようになってはいないのです。男性が間違えれば、その一門は滅びるのです。そのような時が来ているのです。統一思想を知るようになれば、そのようなことはできません。」(26)

「汚れた人は、先生が絶対祝福してあげるようになっていないのです。前にも話しましたが、それは殺人したことよりひどいのです。殺人は一人を殺しますが、それは自分の後孫を全部殺してしまうのです。・・・・・・皆さんがこの罪に引っかかれば、皆さんの先祖まで・・・。先祖の希望が何でしょう？　自分たちを正してくれるのを願っているのに・・・。また後孫がどれほど悲惨であるか考えてみなさい。人の親の役をすることは大変であり、人の先祖になるのが易しいことではありません。これから子供たちを産めば、皆愛して喜ぶでしょう？　かれらに口を開けて毒を飲ませるのと同じなのです、毒を。これをよくしなければならないのです。」(27)

「これは恐ろしいことのうちで一番恐ろしいことです。殺人罪よりももっと恐ろしいのです。殺人罪よりもっと恐ろしい罪を扱うのです。人一人を殺す殺人は、一人を殺すことですが、これは数千代の後孫を滅ぼすのです。何人、何百人、何千人が犠牲になるのです。これからこの問題は殺人よりももっと恐ろしい罪として・・・。そうでしょう。そうではないですか？　これはこれから、考えもできないように教育しなければならないのです。」(28)

「最も恐ろしいこと、憲法の第一条とは何かというと、『純潔な血統を守らなければならない』ということです。汚してはいけません。ですから、女性たちは引かれていく素地が多いので、いつもナイフやカミソリを持っていれば、相手の手につかまれた所の近くを、『ええい、どうにでもなれ』と言って、切ってしまうのです。そのようにすれば、助かるのです。それでもだめならば、自分の首を切るのです。それくらいの心構えが必要です。このように、純潔を守ることは、生命よりも貴いことなのです。」(29)

純潔な愛を具現する人は神様の顕現を感じて生命に感謝して全人類に対する愛を体恤する人である。真の愛を具現する人は神様と密接な方法で対話することができるという(29)。純潔な愛は絶対性によってなされる。その絶対性の実践は婚前純潔を意味する。すなわち生殖器を使うことができる条件をととのえた純潔な立場で、結婚後に配偶者と

生殖器が一つになる性関係を持つのだ(30)。永遠な愛の器官である生殖器の持ち主は配偶者であり、その原則によってそれぞれ配偶者は互いに性器の使用権限を持つことができ、その唯一の使用者になるというのだ。ゆえに絶対性とは、自分の配偶者にたいして貞節を守ることを意味するとみる(31)。文先生は、Free Sexは悪の行為であり、絶対的に消滅されなければならず、世界を悪しく変形させる主犯だと言われる(32)。純潔な愛が現実的で家庭崩壊の道徳的解決法であるのみならず、すべての人間問題の究極的解決法であると教えられる。また人間始祖は、不倫な性関係で罪を犯したし、復帰のための条件は純潔が絶対性の中心になるのだ。したがって純潔運動は人間始祖から遺伝されて来た不倫な性関係から解放される礎石になるのである。文先生は最初の女性であるエバが初めて罪を犯したから、女性がまず純潔を成さなければならない責任があると説明される(33)。

以上のみ言から見れば、純潔または絶対性は単純な性倫理次元の問題ではなく、人類の創造、堕落、復帰と密接に関わる血統の問題であることを知ることができる。文先生が2005年8月、ソウルで開催された平和の王即位式一週年記念のみ言である「祝福結婚は天地合徳、宇宙合一の道」や、2005年9月12日アメリカニューヨークで開催された天宙平和連合の創設基調演説である「神様の理想家庭と平和世界のモデル」をよく見れば、人類歴史は人間創造直後エデンの園で起きた不倫の愛で失ってしまった天の血統を取り戻そうとする努力の連続であることを論じている。

それでは『原理講論』と『統一思想要綱』ではこれに関してどのように論じているのであろうか?

(2)『原理講論』と『統一思想要綱』に見られる純潔と絶対性、人類の血統復帰に関する内容

統一史観の基本立場は、統一原理の中の復帰原理にもとづいた歴史を罪悪史、再創造歴史、復帰歴史として解釈する。歴史は人間始祖の不倫な性的堕落によって始まったものと見る。『原理講論』では、太初のエデンの園において、愛に対する過分な欲望から自分の位置を去った天使長ルーシェルと、神のように目が明るくなろうと、時ではない時に時のことを望んだエバが、互いに相対基準を造成して、非原理的な愛、すなわち不倫の愛によって霊的な性的関係を結んだのを人類堕落の端緒と見る。その後、霊的に脱線したことの深刻性を悟ったエバが、自分の原理的な相手であるアダムを誘惑して肉的に不倫な関係、すなわちアダムとエバが神様の許諾がある前にいわゆる婚前性関係を結んだことが人間始祖の堕落と見る(34)。そのために人類歴史は原理的で正常な歴史として出発することができず、対立と葛藤、戦争と苦痛、悲しみと惨状につながって来たのであり、このような歴史を罪悪歴史と言う。したがって堕落問題を解決しなくては、歴史上に提起されたさまざまな問題を根本的に解決することはできないと見る。堕落によって本然の人間は霊的な死の状態に落ちるようになり、本然の世界は破壊された状態になってしまった。

このような過程を経て人類先祖は堕落の血統を持つようになったが、これを本然の神様の純粋な血統に取り戻す歴史にするしかないのが創造主である神様の悲しい事情であり、本然の姿に戻そうとする歴史を復帰摂理歴史または再創造歴史と言う。すなわち神は歴史を通じて人間を再創造し、世界を再建する摂理をするようになったのである。これを再創造摂理歴史という。したがって初めに人間と宇宙を創造する時に適用された創造の法則とみ言がそのまま歴史の摂理にも適用されたのである。

神の創造はみ言(ロゴス)で始まったので、再創造もみ言によって行われる。人間だけが堕落したから人間をみ言で再創造すればよいのである。それで神様は義人や預言者など、精神的リーダーを立てた後、彼らを通じて人びとに真理のみ言を伝えて、彼らを霊

的に導いて来たのである。神は人類歴史の始まりと同時に、罪悪の人間と罪悪の世界を本然の状態に復帰する摂理をなしてこられた。それで人類歴史を復帰摂理歴史と言う(35)。言いかえれば、今日までの人類歴史を摂理的な観点で見れば、失ってしまった神の血統を取り戻してきた歴史であるともいえる。それでみ言に「血統」、「純血」という用語がよく現れ、「血統復帰」を主題にしたみ言をよく語られるのである。

(3)統一思想にもとづいた純潔の概念と純潔観

統一思想にもとづいた純潔観を提示するために、すべての男女は年ごろになれば一夫一婦制で結婚して子供を生んで育てる人類の普遍的生を論議の基本的な前提にする。独身で生活するとか同性愛生活、一夫多妻制等の生は論外にする。

1)純潔は性的な面できれいな状態を言う。

結婚前の純潔な状態とは、いわゆる男性の場合、童貞、女性の場合、処女性を維持した状態をいうのであり、性と関わる純潔の概念としては、一番狭い意味の純潔を意味する。この場合、男性が童貞を喪失した時や女性が処女性を喪失した時、純潔を失ったと言う。この概念では、身体を中心に論ずる傾向が強いが、純潔は精神的にも健全で身体的にもきれいなことでなければならないであろう。すなわち精神的に健全で身体的にきれいな状態の純潔概念である。一般的に男性が童貞を喪失したことより女性が処女性を喪失したことをより重く考えた。婚前性関係に反対する文化圏では、純潔を守ることを結婚の前に必ず守らなければならない性規範と見なした。特に朝鮮時代後期には、純潔と貞節は女性が守らなければならない非常に重要な規範であった。

2)結婚の前には男女が共に純潔を守るように努力しなければならない。

純潔とは、性的な面で精神的にも肉体的にもきれいで、相互間に普遍的に認められる健全な関係を維持することだと見ることができる。10年乗る自動車を買うにしても試乗をして見るのに、まして一生を同居同楽する連れ合いを選択するのに、結婚の前にお互いに生活しながら試して見る必要があると主張する性自由論者たちがいる。しかし統一思想の教えでは、結婚の前には男女が共に純潔を維持しなければならないと考える。結婚の前に愛すると言って性関係を持つことは真の愛ではない。むしろ愛するならば、最小限結婚するまで相手の純潔を大切に守らなければならない。

3)結婚以後には男女が共に貞節を守るように努力しなければならない。

純潔は結婚の前には当然守らなければならない規範であり、結婚後にも守らなければならない夫婦間の貞節概念として拡大して見る。結婚した以後の純潔とは、男性と女性が本然の性的自我の完成と真の愛を実現するための心と体の状態や、人格的な性関係そして性行為を意味する。朝鮮時代後期以来、主に女性に強調された純潔を守る規範を、結婚の前にはもちろん結婚後にも男女が共に守らなければならない性規範として見ようというのである。愛とは、横的に分けることができる性格のものではなく、夫婦だけが享受する睦まじくて親しい行為としての婚内の性を強調する概念である。

4)互恵的相対理想として愛と性を見なければならない。

統一思想では、愛の器官は未婚者においては未来に決まる配偶者の物であり、既婚者においては自分の配偶者のものであると見なして、配偶者と愛する時だけ使うのが望ましいと見なす。すなわち夫の愛の器官は妻のものであり、妻の愛の器官は夫のものであると見る。ゆえに主人意識が明らかな愛の器官を主人ではない者に使うように許容したら、これは性規範に違反すること、貞節を失うこと、純潔を喪失することと見る。

この概念は、私の体は私のだから私の意思どおりしても構わないという一部の女権論者たちの主張と対抗する内容である。私の体を私の意思どおり使うという主張は、ともすればフリーセックスに論理的根拠を提示する危険が大きい。

5)第二の純潔の誓いと保存

守らなければならない愛の規範を一時的な過ちで守ることができず、不正な行為をした時は、本然の愛の基準から悔い改めて、これから愛の規範を正しく守ると誓って、本然の規範を守る生活を実践しなければならない。

6)純潔と貞潔な生活は男女共に守らなければならない規範

男性と女性ともに、婚前には純潔(童貞、処女性)を守らなければならないし、結婚後には結婚内の性生活規範を守って貞節に暮さなければならない。純潔と貞節は女性にだけ強調されるとか男性にだけ強調される性質のものではなく、両性に共に同じ比重で強調されなければならない重要な規範である。

7)創造目的と血統復帰から見た純潔な生

この論文の前部で、改新教では神様に順従する生を暮したヨセフの生を純潔な生の標本と考えると言及した。統一思想的観点から見た純潔な生は何であろうか? 健全な身体と心を持った一男一女が堕落した罪の血統を結婚祝福を通じて脱して、神様の善の血統に生まれかわって夫婦間で健全な生を暮すのである。

これをもう少し具体的に考察しよう。『統一思想要綱』の本性論では、男女がいかに存在しながら結婚しなければならないのかに対して、次のように説明している(36)。本然の夫婦は神様の陽性と陰性の二性性相の一性を代表する存在であり、夫婦の結合は陽性と陰性を持った神様の顕現を意味する。夫婦が神様を中心に横的に互いに愛すれば神様の縦的な愛がそこに臨むようになり、愛の相乗作用による生命の創造が成り立つようになるとみる。本然の夫婦の結合は、神様の創造過程の最後の段階であるから、それは宇宙創造の完了を意味する。夫婦の完成は、宇宙創造の完了を意味するのであり、夫婦が完成しなかったので、神様は再創造の摂理を続けて来たのである。再創造とは、堕落した人間にとって個体を完成し、さらに夫婦として完成するようになることであり、夫婦として完成する時、初めて人間は万物の主管主となり、その時、宇宙創造が完成すると見る。このような側面から見る時、夫と妻がお互いに愛するということは、その家庭における神様の顕現と宇宙創造の完成を意味するのである。ゆえに夫婦の結合は神聖で尊い結合だと見る。神様の愛を中心して完成された家庭が集まって社会を成し、国家と世界を地上に成すようになれば、それが地上天国であり、神様の創造理想を完成した世界になるであろう。このように男女が愛して夫婦を成して家庭を築く生を神様の創造と堕落と理想世界建設と関連づけて見る時、私たちは人生を当事者だけのもの、いい加減なもの、単純なものとして見られない。

だから宗教的な意味まで含んだ広い意味から見た純潔な生とは、われわれ人間が神様のみ心によって創造された創造目的に合うように、すなわち三大祝福を実現する生を暮すのである。すなわち神様の神性に似ている個性を完成した完全な男と女が、神様の意に適うように結婚して、倫理規範に従って正しく暮しながら息子娘を生んで育てて、自然環境に順応して、これを活用して睦まじく暮すのである。そのような意味で、一人暮しや同性愛は上述した純潔な生に反するものと見なすしかないであろう。

次に、詳論した純潔の概念と純潔観に関連して純潔学をどのように定義することができるであろうか。その教育方向と内容はいかなるもか、教科課程はどのように構成され

なければならないのかなどに関して考察する。

Ⅳ. 純潔学の教育方向と内容

1. 純潔学とは?

純潔学とは、早い話が純潔に暮すようにする学問だと言える。かつて純潔学に関する概念は「純潔学の狭義の概念は個人と家庭の生が純潔な生を暮すことができるように助ける学問である」、「純潔学の広義の概念は、すべての文化活動領域に属した世界市民たちの関係と価値領域の活動が、道徳的倫理的に純潔な徳目を具現するように助ける学問である」と定義されたことがある(37)。さらに、このような定義が、純潔な生の現場を個人や家庭の次元で見るのか、それとも世界の次元で見るのか、そして性的純潔に焦点を置くのか、倫理的で道徳的な純潔まで拡張して規定することなのかによるものとみて、「純潔学は人間が個人、家庭、社会の領域で性的に倫理的に純潔に暮すように研究する学問」と再規定された(38)。

筆者は前項で整理した純潔の概念と純潔観によって、「純潔学は純潔な生の必要性を自ら悟って、これを実践して、周囲の人たちと全世界人たちが純潔に暮すようにして世界平和実現に寄与するようにする理論的素養と実践的解決方案を研究して教育する学問である」と定義しようとする。

2. 純潔学の教育方向と内容

(1)既存の研究の要旨

金ボンテは純潔教育の目指す点と出発点として、①純潔教育は人間教育、②生殖器教育は純潔教育を基礎に持つという。続いて純潔教育の接近方法として、①精神と肉体的純潔をともに重視しなければならないし、②男女両性平等な純潔教育強調して、③対象による教育を実施しなければならないと考えた(39)。

ソングァンソクは中高生のための純潔教育の目指す点として、①人間教育、②両性平等、③良心に基礎した人格の養成、④生殖器に対する倫理観の確立をあげた。そして教育対象によって適切に教育しなければならないし、現実性ある純潔教育のために、①正しい異性交際と愛の真の意味を明らかにしなければならないし、②姙娠と堕胎に関する指導、③性暴行の弊害と性的満足感に対する正しい理解、④性病に対する指導が必要だと見た(40)。また彼は他の資料では、成熟した純潔教育の指針として、①人格教育に基礎した教育、②男女平等の観点での教育、③良心に基礎した成熟した純潔教育、④生殖器の主人意識の教育、⑤対象によって指導方法を異にした教育をあげた(41)。

大谷明史は純潔教育の理念(事実上、理念というより内容として解釈される)として、①神の実在、②純潔を守らなければならない理由、③愛の成長、④不倫が許容されない理由、⑤祝福による家庭再建、⑥宇宙法則に対応する規範をあげた(42)。

文サンフィは純潔学の理念として、①純潔な人間完成の具現、②純潔な家庭完成の実現、③純潔文化の人類共同体創建をあげた。そして純潔理念を成すための純潔教育の内容として、純潔理念の各段階別に仕分けした内容を提示した。すなわち純潔な人間完成のための教育として、①絶対価値観樹立、②身心の統一、③知情意の調和のとれた均衡をあげた。そして純潔な家庭完成のための教育として、①子女愛の領域、②兄弟姉妹愛の領域、③夫婦愛の領域、④父母の愛の領域を提示した。続いて純潔文化の人類共同体のための教育として、①純潔学問の専門化、②人類の奉仕的生、③純潔な性文化樹立をあげた(43)。また彼女は他の論文で、青少年の性教育の方向として、①真の愛を中心し

た絶対的価値観樹立の教育、②真の愛を中心した性の自律性、主体性、責任性の教育、③私の身体に対する正しい主人意識、④男女特性の調和のための男女平等教育、⑤普遍的原理から見た結婚の当為性教育を提示した(44)。

金ボンテやソングァンソクが主張する純潔教育の方向や内容は教育を実施してきた現場中心の実在的内容が強いという感じを与え、大谷や文サンフィの論文は観念的、理念的性向が濃く感じられる。筆者は既存の研究を参照にしながら、すでに論述した純潔観を教育するための方向と内容を提示するために努力しようと思う。

(2)純潔教育の方向と内容の区分

今日、性教育は価値観中心の純潔教育と、避妊中心の生物学的に接近した教育に二分されると言える。価値観中心の純潔教育は、性に関する倫理、道徳的規範に関する内容をより多く扱って、婚前純潔の奨励、健全な家庭生活、婚外性に対する抑制などを強調する内容で構成される場合が多い。一方、避妊中心の性教育は人体生理学に関する説明が多くなって、妊娠と出産そして避妊、堕胎、性病などに関する説明が教育内容の主流をなすと考えられる。

この二つの性教育の分岐点において、どの教育に重点を置くかに対する論議も多かった。現在、韓国では価値観中心の純潔教育よりは避妊中心の性教育の必要性がより優勢である。しかし避妊中心の性教育をより強調する人たちも、避妊中心の性教育と同時に価値観中心の教育が実施されなければならないという点では意見を共にしている。

ところで人間は心と身体または精神と肉体の領域に大きく分けることができる。ここに人間が造物主によって創造されたと考える統一思想の創造論的見解を加えれば、造物主である神様の領域と人間の領域を合わせて、純潔観も神様の摂理と連結された価値観、そして人間の心に関する部分と身体に関する部分の三つの領域に区分することができるであろう。それで性教育も摂理史観的観点から見た性教育と、価値観中心的純潔教育、そして避妊中心の性教育に分けて考察する必要がある。

(3)摂理史観から見た純潔な生の必要性に関する教育

人間はいかなる思考の枠組を持って暮すかによって、その行動が大きく変わる。人間が母胎で10ヶ月住んで、空気を呼吸して、約80年ばかりの肉身生活をしている途中で死んで生を終えると信じるのか、それとも肉身生活を終えた後にある死後の生すなわち永生の生があると信じるのかによって、人生観は非常に異なる。肉身生活をしている途中で肉身の生を終えれば万事が終りだと信じる人たちは、与えられた80年ばかりの一生のみを念頭に置くあろう。しかし肉身の生を終えた後にも、私たちの魂が永遠な世界(統一思想ではこれを霊界という)で生を続けるようになっていて、母の胎中での生が肉身を使って空気を呼吸しながら暮す生に大きい影響を及ぼすことと同様に、肉身を使って暮す生が霊界での永遠な生にこの上なく大きい影響を及ぼすと思えば、私たちの生はずっと用心深くなるであろう。すなわち、子供を懐任した産婦たちが風邪薬を服用したり、コーヒー一杯飲むのも気をつけ、良い考えをしようと努力するように、永遠な生を準備しなければならない、限られた肉身生活であることを知る人たちの生活は、与えられた生を通じて、豊かで充実した永遠な生を準備しようと努力するであろう。

ここで私たちは本然の人間の生が死後の生を否定する二段階の人生観を持つのか、死後の永遠な生を認める三段階の人生観を持つのかに対する本質的な問いをしなければならない。二段階人生観を持つ者を人本主義的無神論者、三段階人生観を持つ者を神本主義的有神論者と言ってもよいであろう。統一思想の見解は当然、神本主義的三段階人生観を真理だと見なす。

統一思想にもとづいた純潔な生を真に教育するために、次の事項を教育しなければな

らない。まず、神の実存と死後の世界があることを教育しなければならない。これを聖書的根拠だけで教育しようと考えてはいけない。聖書を経典とする神々しい話を信じない人たちに、このような教育は説得力がない。科学的にも神の存在を説明しなければならないし、死後の世界が現存することを説明しなければならない。

第二に、私たちの人生はあるがままに生きて良いのではなく、肉身を使って生きる時、必ず成さなければならない人生の必須過程があることを教育しなければならない。生まれて育ち、大人になれば結婚して子女を生んで育てながら祖父母になって、肉身が老衰して肉身の生を終えるまで学んで体験しながら悟らなければならない課題がある。幼くして親から愛を受けて育ちながら兄弟姉妹間に愛をかわしあいながら、大人になり、結婚して夫婦間で愛をかわして親となって、子女を育て、むつましい情を感じながら、人間が持たなければならない愛を学んで完全な人間として成熟して行くのである。これを統一思想では三対象の愛と四大心情圏という(45)。このような統一思想的観点から見れば、長くない人生旅程でこのような課題を蹉跌なしに遂行しようとすれば、結婚して家庭を成して子女を生んで育てることは必須のことになるのだ。結婚はしても良く、しなくても良い選択事項ではないのである。子女を生んでも良く、生まなくても良いというようなことではないのである。

第三に、摂理史的歴史観に関する教育が必要である。統一思想では、人間始祖が神様のみ言を守らないで、本然の立場から外れた堕落の原因が性的な犯罪にあり、堕落した人類が原罪を脱いで本然の姿に戻るためには、結婚祝福の過程を経て血統転換をしなければならないということは前述したところである。要するに、我々人間は、神の存在を知って、人間には肉身の生を終えた後、永遠な霊界の生を含んだ三段階の生があり、与えられた限られた肉身の生の間、よく育ち、結婚祝福を通じて家庭を築いて、子女を生んで育てながら、一人の人間として成熟しなければならない人生行路があることが分かって、これを実践しなければならないと見るのである。このように生きる生を、広い意味から見た純潔な生だと言えるであろう。ゆえに純潔な生を暮すことが最も賢明で充実な生であることを教育する必要がある。

(4)純潔価値観教育

1980年代の始めまで、性教育はすなわち純潔教育を意味する傾向が多かった。今日、性教育と言えば、価値観中心の純潔教育と避妊中心の性教育に、または価値中立的性教育と直接的性教育に区分する趨勢である。ここで価値中立的性教育とは、面談者や教育対象者の性倫理や性行動に対して、指導者が正しいとか悪いという表現をしないで相談や教育に臨むことを言う。事実上、避妊中心の性教育を意味する。また直接的性教育というのは、面談者や被教育者に性倫理や性行動に対して価値的に正しいとか間違いであると、言い表す教育方式を言うのであり、価値観中心教育に分類される方法である。

価値観中心の純潔教育は、性に関する倫理、道徳的規範に関する内容をより多く扱って、婚前純潔の奨励、健全な家庭生活、婚外性に対する抑制などを強調する内容で構成される場合が多い。ここでは純潔価値観教育の方向と内容に関して次の何種類かに分けて考察することにする。

1)正しい異性交際と愛の真の意味を目覚ましてくれる教育

思春期の青少年たちは異性交際をする時、理性との差異から来る性的好奇心で、容易に熱情的関係に没入するようになることができる。この時、愛するという感情で性関係を結んで妊娠という問題に直面する場合、大多数が無責任に断交したり堕胎をすることで、深く傷つくようになる場合が多い。そのような点で青少年たちに対する純潔教育は、「好きだ」と言うのと、本当に「愛する」と言うのと、どう違うのかを明らかに認識さ

せる必要がある。
　親が子を慈しみ、保護し、責任を負おうとするのは子女がただ好きではなく愛するからである。同様に、子女が親の老後を面倒を見て慈しみ、責任を負おうとするのは両親を愛するからである。このように愛は好きとは異なり、相手を真に慈しんで保護して結果に対しても責任を負うことができるのだ。このような点から見て、もし誰かを愛すると言いながら、相手の感情や状態を真に考慮しないで、結果に対しても責任を感じる事ができなかったら、それは確かに愛ではなく、自分の性的欲求を愛で美化させることに過ぎないのである。
　したがって青少年たちに対する純潔教育には、必ず正しい異性交際と愛の意味を正しく理解させて、愛の感情を性関係と同一視する無責任な性価値観を正しくしてあげなければならない。特に性的欲求が強い男子青少年たちには、本当に相手の純潔を守ることができる成熟した愛を指導しなければならないし、女子青少年たちにも、真に愛する相手がいたら、むやみに性関係を結んで自分の純潔を喪失するよりは、丁寧に断ることができる知恵を教えてあげなければならないであろう(46)。

2)自負心を持つ自我尊重の教育
　統一思想では、人間を小宇宙であり、天宙の総合実体相とも言う(47)。人間は誰でも過去、現在、未来を通じて、唯一無二の存在として生まれた歴史的存在である。一生命体が誕生するのに親の献身的な愛と世話だけではなく、すべての先祖の深い愛があったから今日の私が存在するのだ。したがって私たちの先祖は私たちの髪の毛一本までも親が譲った愛の遺産だと思って大切にしたのである。
　このように自分の身体を大切にすることから正しい純潔教育は始まらなければならない。すなわち自分の価値を貴く見る時、自分の生命の動機になった性も貴く認識することができるのだ。ゆえに真正な純潔は性的経験を慎むことだけではなく、自分の身体を大事に守っていくことまで意味する。
　したがって純潔教育は、狭くは性の価値観教育であるが、広くは身体に害を与える各種の薬物から自分を守っていくことができるように指導する教育までも含む。このような点で純潔教育は結局自分の価値を正しく理解して、自分の性も他人の性も大切に尊重するのはもちろん、肉体的にも健全な生を実践していくよう導いてくれる、人間尊重の教育と言える。

3)良心に基づいた純潔意識の涵養
　現代生活において、純潔の定義を身体的観点だけで理解したら、多くの問題が引き起される。例えば、純潔なのか、そうでないかを処女膜の存在の可否に置いたら、これは女性の純潔のみを強調する性イデオロギーになるのだ。女性の処女膜というのは、子宮内部を覆っている薄い粘膜であり、性関係を経験しなくても、成長過程や激しい運動または自慰行為などを通じて破裂することができるのだ。もし処女膜が純潔の基準なら、フリーセックスを行った女性が結婚の前に再生手術で処女膜を修復すれば純潔になるのであろうか?
　このような点で、真正な純潔を生物学的な身体で区別するようになってはいけない。真正な純潔の基準とは、肉体的な処女膜ではなく、まさに良心に基づいた処女性にならなければならないのだ。同じく男性の場合も、良心に基づいた童貞性が純潔の基準にならなければならない。このように良心に基づいた純潔意識の重要さを青少年期から正しく指導する時、青少年たちが精神と肉体の純潔をともに重視する人格者に成長することができるであろう(48)。

4)自分の身体に対する正しい主人意識の教育

一般的に性教育課程において、自分の身体は自分のものなので生殖器も自分の思いどおり使っても良いと主張する人たちが多い。その結果、自分の身体を純潔に管理しても、勝手に使っても、自分の自由であるという考え方を植えつけやすく、フリーセックスや無責任な放縦の道に入るようにする素地が大きくなった。どんな存在物でも、人体でも、本来作られた目的があるのである。それらは作られた目的にかなうように使われなければならない。

ここで私たちは人体をそのように設計なさった造物主のことを考えざるを得ない。子女が自分を生んで育ててくださった親に親孝行することは、人間として守らなければならない当たり前の道理であると考える。同様に、人間を創ってくださった造物主にも、人間は基本道理をつくさなければならないであろう。人間は生まれれば、独立した人格体としての資格を付与されると主張するのが普遍的な見解であるが、最小限、人間が存在するようにしてくれた原因者である造物主と、自分を生んで育ててくれた親に対する道理をしなければならない。それが天倫に従って暮すということではないか?

人間の生殖器の構造をよく見れば、男女の生殖器は相手のために必要な愛の器官であることが分かる。男性の陰茎は生命の種を女性の子宮まで效果的に伝達するのに有用な構造である。女性の子宮と膣は生命の受胎と出産のために適切な構造になっている。男女の身体構造は基本的に、共に愛しあって子女を生んで育てるようになっている。生殖器の使用において、自分が保管しているといって、自分の意のままに使うと主張するのではなく、どのように使うのが創造された目的に合うのか考えて見る必要がある。

すなわち、私の体の一次的な主人は源泉的創造者である造物主であり、二次的な主人は私を生んでくださった両親であり、私の生殖器の三次的主人は自分自身ではなく、まさに自分の配偶者であるという認識を持つ必要がある。このような私の体の主人意識、特に生殖器の主人意識を持つ時、この社会は幾多の性紊乱の問題から自由でありえると考える。ゆえに生殖器の主人は配偶者であることを、青少年はもちろん大人たちにも認識させる必要がある。

5)男女両性平等な純潔教育

かつて我が社会では、純潔は女性にだけ一方的に盲目的に強要する傾向が強かった。その結果、男女不平等はもちろん男女の性差別までもたらすようになった。このような良くない影響のため、元来、純潔という用語は良い意味にもかかわらず、女性界では純潔という用語自体を使わないようにしようと主張するに到った。したがって望ましい純潔教育は、相手を相互尊重する内容を土台に、男女が共に純潔を守ることではなければならない。

また純潔は自分の純潔はもちろん、相手の純潔を大切に守ることで男女の性平等化を実現する内容ではなければならない。そうしてこそ、男女が同じ位置で同等な仕事ができ、すべての仕事に同参することができる関係性を作っていくことができる。そうだとしても、男女平等は生理的、生物学的差異までなくすのではない。男女の性差は調和と愛のためにあるのであって、差別のために存在するのではない。

6)対象によって差のある教育

純潔教育は、単純に純潔は良いことで純潔を守らなければ悪いという白黒の論理で接近してはいけない。純潔教育は対象によって方法と内容を異にして指導しなければならない。

第一に、性経験がない絶対多数の青少年たちに対しては、予防的次元で指導がなされなければならないであろう。彼らにはまず充分に純潔の意義と価値を説明してあげて、

それを守る時と守れない時に現われる問題点などに対してで説明することで、自ら純潔を守っていくことができる価値観を養わなければならない。
　第二に、すでに性経験がある青少年たちには、彼らを問題児として批判するよりは、十分な理解の上で純潔の正しい意味を知らせてあげて、反復的な性関係に発展しないように指導してあげなければならないであろう。特に、彼らが思春期を送っているという点で、これから純潔な愛の価値観を持って正しい生活を実践したら真の愛と幸せな家庭を実現することができるという希望を与えて、再出発の動機を与えなければならないだろう。その場合、彼らに対する強い信頼感が反省と再出発の動機になるという点で教育者と親の役割が非常に重要である。
　第三に、性暴行の被害者たちに対する教育である。性暴行にあった場合、多くの女性が自分を醜く思って、心理的不安定状態に落ちこんだり、甚だしくは精神的疾病や自殺に至ったりする。彼女らに対する純潔教育は非常に慎重にしなければならない。なによりも自分の意志と関係ない性暴行は真正な意味で純潔を失ったのではないということである。これはただ肉体的な被害と暴力を受けただけで、自分の純潔にはなんらの影響も与えることができないことを確かに認識させなければならない。親や教師は、なによりも変わらない態度で指導することで、性暴行の被害者が一日も早く精神的苦痛から脱するように手伝ってあげなければならない(49)。
　上記のような理由から、純潔教育は対象によって予防的次元と再出発の動機の賦与、そして治癒的な側面から成り立たなければならない。

　ここまで価値観中心の純潔教育の方向と内容に関して考察した。ここで性教育のまた他の大きい基幹を形成している避妊中心の性教育、生物学的観点の性教育の方向と内容に関して考察して見ることにしよう。

(5)生物学的知識に関する教育
　性が人間一個体において最も大切な理由は、まさに性の器官が愛の器官であると同時に、大事な生命の器官であり、また先祖と後代の家系を受け継ぐ血統の器官であるためだ。人体の身体器官の中には大切でないものはないが、性の器官は他のなにものにも劣らず大切な器官である。このような面で、正しい純潔教育では価値観に劣らず人体の生物学的な側面でも正しい理解が重要なのだ。以下、それに関して扱わなければならないいくつかの事項を考察する。

1)男性と女性の生殖生理に関する教育
　動物に与えられた性は繁殖を中心に用いられるが、人間に許諾された性は繁殖はもちろん和合の機能まで持っている。人類は円満な性生活を通じて家庭を成して繁殖し、存続して、お互いの愛を確認する。このように重要な性に対して、私たちはすべて知っているようだが、事実はあまり分からない場合が多い。円満な生のために、男性と女性の生殖器の構造と機能生理作用などに対する生物学的心理学的理解は非常に重要である。このような教育は幼い時から大人になるまで、甚だしくは大人になってからも段階的に適切な教育を体系的に実施する必要がある。

2)妊娠と堕胎の危険性そして避妊に対する効果的な教育
　子女を待っている結婚した夫婦に妊娠と出産は新しい生命の誕生という大きな祝福になる。しかし未婚の母の予期しなかった妊娠は大きい戸惑いを与える。普通、未婚の母が自分の妊娠の事実を確認するようになるのは、おおよそ3ヶ月以後だという。この時はすでに胎児のすべての身体組職が人間の姿を形成するようになる。これは大部分の

青少年の未婚の母が妊娠に対する事前知識がない上に医療機関で妊娠を確認するよりは、3-4ヶ月の間に生理が止まる現象を通じて妊娠の可否が分かるようになるからだ。このような場合、性的な関係を結んだ相手を捜すようになるが、大部分、未成年や成年でも、不道徳な関係が多くて、交するとか無責任な態度を取ることによって、妊娠した女性に大きな傷を与えるようになる。親や先生と相談して、問題を早期に解決すれば幸いであるが多くの場合、一人でくよくよしてから結局は友達の助けを借りて不法な堕胎をするようになる。

大人にとっても堕胎は慎むべきことであり、用心すべきことなのに、不法な手術で堕胎をするしかない未婚の母の堕胎は、倫理的にも、うしろめたくて、自分の健康のためにも非常に良くない事だ。一時的衝動に勝つことができずに性関係をした時、願わないとしても妊娠の可能性があることを教育しなければならない。そしてなるべく婚前性関係を持たないように教育するべきだが、現実的には婚前の性関係が非常にありふれたことになっている。彼らが願わない妊娠と堕胎の悪循環の輪に落ちこまないように、避妊に対する教育をせざるを得ないのが現実である。

3)AIDS及び性病に関する教育

健康状態をよく知らない相手との性的接触を通じて性病に感染する例が少なくない。特に未知の多くの男性を相手にする売春街の女性たちと性関係を経験する場合、その伝染可能性はずっと高くなるであろう。性病は簡単に治ることもあるが、主として性的接触で感染するAIDSはまだ現代医学としても治療が不可能な疾病である。AIDSは性関係や血液投与などによって感染し、人間の免疫体系が壊れて、結局はかび菌の侵犯や風邪など軽い合併症でも生命を失うようになる恐ろしい疾病である。AIDSが恐ろしいのは、AIDS菌の人体内潜伏期間が長いため、自分がAIDSに感染されたのも分からない状態で他人に容易に感染させることができるということだ。梅毒のように、AIDSのように、生命自体を奪いとられないが、性器官を壊して生殖機能を失わせる性病もある。性病の予防のためにコンドームを使いなさいと勧める場合が多いが、コンドームは性病予防の補助手段はなるとしても、その究極的な解決策になることはできない。幸せな結婚生活のために、各種の性病に関する教育が予防と治癒の次元で必要である。

4)性暴行の弊害に対する教育

男女がお互いに好きになり、愛したくて近づきたいことは当たり前のことだ。好きな感情が性の接触まで発展すれば、その結果も大きくなるものと決まっているので、当然結果に対して責任を負うべき準備ができていなければならないであろう。それで性とは、互いに好きな合法的な相手と許容される範囲内で行うことだという普遍的性倫理概念が必要である。ところで性を単に一時的な欲求解消の手段として一方的に行うようになれば、その行為は性暴行に変質することができる。

性暴行は自分の欲求を解消する一時的な手段になることができるが、性暴行にあう相手には一生の間忘れることができない大きい苦痛を与える。そのような点で性暴行は相手の人格を踏みにじる犯罪に違いない。したがって性暴行の被害がいかに大きいかを教えなければならない。同時に、相手を人格的な存在として気配りすることはもちろん、自分が意識しないで、相手に性的はずかしめを与える場合はないのか、いつも気をつける姿勢を教育する必要がある。

(6)活動領域から見た純潔教育の方向と内容

先に「純潔学は純潔な生の必要性を自ら悟ってこれを実践して周囲の人たちと全世界人たちが純潔に暮すようにして世界平和実現に寄与するようにする理論的素養と実践

的解決方案を研究して教育する学問である」と述べた。性に関して純潔に暮すということは、結婚の前の男女は性的にきれいなこと、結婚した男女は配偶者以外の人とは性的接触がなく自分の配偶者と愛を分けながら暮す生だと言えるであろう。広い意味から見た純潔な生は、「私たち人間が神のみ心に従って創造された創造目的に適うように、すなわち三大祝福を実現する生を暮すこと、すなわち神性に似ている個性を完成した完全な男性と女性が神のみ心に合うように結婚して、倫理規範によって正しく暮しながら息子娘を生んで育てて自然環境に順応しながら、人間の間に睦まじく暮すことである」と定義した。

だから個人的に純潔に暮すことはもちろん、家庭的にも純潔に暮さなければならないし、社会と国家的共同体の生の中でも純潔に暮さなければならないし、ひいては世界的にも純潔に暮すようにする活動が必要である。純潔な生とその活動の範囲を個人から世界まで広げてみれば、純潔学の教育内容も当然、個人から世界に至るまで多くの範疇の人たちが純潔に暮すように導く内容が込められなければならないであろう。例えば、個人の次元で必要な心理学から、国際的活動に必要な外国語、国際文化やエチケットなどに至るまでである。

3. 純潔学の教科課程編成と補完

教科課程は抽象的な教育内容を圧縮したものだと考えられる。前述した純潔学の教育内容を入れた教科課程を編成しようと多くの努力をして来た。その過程とこれからの方向に対して整理して見る。

1) 純潔大学創設と教科課程編成

1998年8月、純潔大学を創設する責任者としてソヨンヒ副総長が学長に、筆者が実務幹事に選任された。約一年間、責任者の役目をして来た高グァンソ副総長と実務幹事である金ヒョングァン教授から純潔大学創設の業務を引き受けて、より具体的な創設作業に入った。苦心した大学名称は、理想家庭大学と純潔大学の中から、純潔大学に決まった。新入生はまず女子学生から募集する事にし、紆余曲折のあげく、入学生全員に入学金全額と寄宿舎費を奨学金で支給することに決まった。純潔大学の初入学である1999年度の入学募集は順調に進行された。筆者は純潔大学の創設のための行政を担当しながら、初期の教科課程を作成し、運営するのに尽力した。

しかし実質的に講義を担当する者は筆者ひとりだけである状況で、大学のカリキュラムの枠を備えて講義を進行するのは大きい問題だった。まずとり急ぎ、一年生過程で専攻科目は原論水準の教科の二～三科目を筆者が担当することができる科目として、鮮文大学の全教養科目カリキュラムの枠内で開設した。そして一学期末に純潔学科と関連性が高い四チームの教授たちに、純潔学とカリキュラム作成に関する研究課題を付与して、鮮文大学の主要な補職教授たちを招待しながら、それを発表して討論する公聴会を経て、段階的にカリキュラムを定めた。何回かの補完作業を経て、次の表１のような純潔学科の教科全体連携表を作成することができた。そこには大学全体の教養科目を入れたのであるが、愛、純潔、家庭の部分が純潔学講座の要諦である。原理のみ言は純潔学の思想的土台になる分野であり、社会福祉、相談関連教科目は純潔学を広げるのに役に立つ分野と見なした。残りの連携学問は純潔学を補って卒業後、社会に進出するのに役に立つ分野から構成した。

筆者は純潔学と関わると考えられる多くの関連学問分野を調査して純潔学の総論と各論形式で講義案を編集し、純潔学原論の講義を担当して来た。他に選択の余地がなかった。

<表1>純潔大学純潔科の教科全体連携表(1999年)

区分		1年生	2年生	3年生	4年生
原理とみ言		聖書と原理 霊性啓発	統一思想 真の愛と真の家庭論	原理研究 み言学	世界平和思想研究
外国語		一般英語 TOEIC	日本語 TOFEL、英会話	実務英作文 初級スペイン語	原書講読
愛 純潔 家庭	愛 純潔	純潔学原論	純潔及び真の家庭運動史 児童青少年純潔	社会調査方法論 純潔事業実習1 性教育学	純潔事業実習2 純潔学校再開発 純潔学特講
	家庭		結婚と家族 家庭管理論	韓国家庭と伝統 父母と子女の関係研究	家族問題相談及び治療 父母教育
社会事業 社会福祉		人間行動と社会環境	個別社会事業論 集団社会事業論 学校純潔社会事業論	家族社会事業論 ボランティア論 薬物濫用	社会事業政策と行政 社会保障論
相談		発達心理学	相談心理学	相談理論と実際	家族問題治療と相談
倫理			倫理学概論	倫理学古典講読	統一教育論
秘書 初期社会進出		(情報処理学概論) 経営管理論	秘書実務論 会計原理の理解	実務英作文	OA理論と実際
教養 社会教育		大学作文 心理学概論 社会学概論 社会教育概論	女性学 社会教育方法論 人間コミュニケーション	北朝鮮学概論 組職理論	

2)純潔学の教科課程補完

2000年に文サンヒ教授が純潔学科教授に新たに補任され、2001年に統一神学大学で奉職していた李ジェイル教授が純潔大学に補任された。新聞放送学科と純潔学科に二重の籍を置いていたソヨンヒ教授は新聞放送学科にだけ所属するようになった。そういうわけで純潔大学に所属する教授は筆者を含んで3人になり、より体系的に純潔学関連の専攻講義を進行することができるようになった。

純潔学自体の教科課程を補う作業はほとんど毎年続いた。教務処から提示された新しい教科編成指針によって調整した教科体系は、2005年現在、表2のようである。

〈表2〉主要専攻教科目連携表

区分	専攻I	専攻II	専攻III	外国語
教科目	結婚と家族論 発達心理学 純潔学原論 統一思想 性の社会学 韓国家庭と伝統 倫理学概論 性教育学 青少年純潔事業論 人体と生命 純潔人間論 社会問題論 家族社会事業論 純潔事業実践論	一生教育概論 純潔英語会話 純潔学特講1 純潔事業実習1 家族治療と相談 人間資源開発論 逸脱された性と対策 相談の理論と実際 父母子女関係及び父母教育 青少年指導論 英語原理講義 研究調査方法論 純潔事業実習2 性と法律 ボランティア論 純潔学英語講読	レクレーションと修練 純潔指導者と組職行動論 薬物濫用と治療 性と文化 世界平和思想研究 純潔学特講2 青少年非行と更生 放課後児童指導 社会事業政策と行政 純潔学校再研究	英語読解1、2 初級英語会話1、2 中級英語会話1、2 実用英語会話1-4

表2の教科目は表1の教科目上の専攻学問分野を大部分入れているが、教務処から提示された教科目履修ロードマップによって再整理したものである。すなわち専攻Iは低学年段階で履修しなければならない専攻科目であり、専攻IIは高学年で扱わなければならない専攻科目である。そして専攻IIIは純潔学を深く専攻する学生のために開設される専攻科目である。表1が学問領域別に体系化されたものなら、表2は学問領域よりは専攻履修手順や段階に力点を置いて体系化されたものだと言える。

3)教科課程の追加補完方向

今もなお、純潔学科に所属する教授たちと教科課程に対して議論を継続しながら、補わなければならない方向に対して論議している。ところで純潔大学が門を開いて以来、今まで講義をしながら感じた経験と、卒業生たちの反応、そして先に論述した純潔学の教育内容と方向に照らして見る時、現在の教科課程はまだ倫理的、理念的性向が相対的に多少強いといえる。すなわち、人体生理学または生物学的分野の教育がもっと補完されなければならない必要がある。そして純潔活動分野から見る時、国家と世界的次元の純潔活動のための教育がもっと補完されなければならないと考えられる。

V. 結び

西欧社会では中世以来、20世紀中葉に至るまで、純潔は性倫理の普遍的概念として受け入れられたものと思われる。韓国では、朝鮮王朝時代、後半期に純潔は女性に特に強調される性倫理だった。しかし1960年中盤から、アメリカで吹き始めた性自由化の風潮が全世界的に広がった。その結果、韓国でも性教育はすなわち純潔教育であり価値観教育であるという考え方は、もうこれ以上受け入れられにくい状況になったし、純潔教育または価値観教育より、避姙中心教育がより必要だという現実になった。このような現実において、純潔学科を設立して純潔学を教育して純潔学を定立しなければならない課題は簡単なことではない。

一つの学問の枠を整理するのは決して易しくないのは周知の事実である。多くの学問は相当に長い歴史を持ってその形態が形成されて来た。純潔学が一つの学問として、いかなる形態も全く備えることがないまま、純潔に生きる生を指導するリーダーたちを養成しなければならないという目的の下に、純潔大学が設立された。学生たちを教えながら純潔学を定立するための努力を傾けなければならない状況に置かれるようになった。国内はもちろん外国の事例もなかった。何を教育するのかということから始めて、創造的に作るしかなかった。月日が経ちながら、とり急ぎ、学年が上がる学生たちを教えなければならない状況に追われ、教科課程を作って卒業生を何回か輩出するようになった。

しかし今、在校生をよく教えながら、純潔学を定立するために真剣に悩まなければならなくなった。純潔学の理念と教育内容を整理して見ようとする試みもあったし、純潔学の正体性を探求しようとする試みもあった。筆者はこのような研究の流れを把握しながら、純潔学が何であり、純潔学の教育方向と内容はどのようにしなければならないのかに対する答を捜そうと努力した。

多くの純潔観を考察しながら統一思想に根拠した純潔観を整理して見ようと苦心した。統一思想の創始者である文鮮明先生のみ言集を探って見たら、純潔と貞節の大切さに関するみ言は多かったが、何故そうではならないのかに関する学問的論拠をを見出すのは易しくなかった。苦心の末、純潔な生と絶対性の必要性は神様の人類救援摂理歴史の核心である、善なる血統復帰にあると結論づけるようになった。すなわち人類始祖が悪の誘惑を受けて堕落することにより、悪の血統を持つようになったが、これを本然の神様の純粋な血統に戻す歴史をなさるのである。これを復帰摂理歴史または再創造摂理歴史ともいう。堕落した人間が本然の純粋な血統を取り戻す方法は結婚祝福によって生まれかわらなければならないと見るのである。

それで純潔な生とは、私たち人間が神のみ旨に従って創られた創造目的にかなうように、三大祝福を実現する生を生きることを意味すると考える。すなわち神性に似た個性を完成した完全な男と女が神様の意に合うように結婚して、倫理規範によって正しく暮しながら、息子と娘を生んで育てて自然環境に順応しながら、人間の間で睦まじく暮すことが創造目的と血統復帰から見た純潔な生だと結論づけた。

もちろん一般的な性倫理の次元での純潔に言及せざるを得ない。筆者はこれを次のように整理した。純潔は性的な面で身体と心がきれいな状態を言う。結婚の前には男女が共に純潔を守るように努力しなければならない。結婚後には男女が共に貞節を守るように努力しなければならない。愛の器官は配偶者のものであると見なして、配偶者とともに愛を分かちあう時にだけ使うもの、すなわち婚内性を純潔な性と見なすのである。そして純潔と貞節な生活は男女ともに同じ比重で守らなければならない重要な規範であると見る。

上述のように定義した純潔に関する学問である純潔学は、「純潔な生の必要性を自ら悟ってこれを実践し、周囲の人たちと全世界の人たちが純潔に暮すようにして世界平和

実現に寄与するようにする理論的素養と実践的解決方案を研究して教育する学問である」と定義した。このように正義された純潔学を教育する方向と内容を大きく四つに区分して論じた。

第一は、摂理史観から見た純潔な生の必要性に関する教育である。これは神と死後の世界の実存に関する教育、肉身を使って生きる生がそれで終わるのではなく、三対象愛、四大心情圏を体恤して来世を確かに準備する生にならなければならないという点において、そして摂理史的歴史観において教育をしなければならないとみた。要するに、私たち人間は神の存在を知り、人間には肉身の生を終えた後の永遠な霊界での生を含んだ三段階の生があり、与えられた限られた肉身の生の間、よく育ち、結婚祝福を通じて家庭をきずき、子女を生んで育てながら、一人の人間として成熟しなければならない人生行路があることを知って、これを実践する純潔な生を生きることが最も賢明で充実な生であるということを教育する必要がある。

第二は、純潔価値観に関する教育である。ここには次の六つの内容が含まれる。正しい異性交際と愛の真の意味を悟らせてくれる教育、自負心を持つ自我尊重の教育、良心に基づいた純潔意識の涵養、自分の身体に対する正しい主人意識教育、男女平等な純潔教育、対象によって異なる教育をしなければならない。

第三に、生物学的知識に関する教育もおろそかにしてはいけない。すなわち男性と女性の生殖生理に関する教育、姙娠と堕胎の危険性そして避姙に関する効果的な教育、AIDS及び性病に関する教育、性暴行の弊害に関する教育をしなければならない。

最後に、純潔な生と活動の範囲を個人から世界に至るまで広げて見れば、純潔学の教育内容も当然個人から世界に至るまで多くの範囲の人たちが純潔に暮すように導く内容が込められなければならない。

上述した純潔学の教育方向と内容に合わせて教科課程を編成し、運営しようと努力した。しかしまだ不備な点が多い。全般的に理念的性向が相対的に強くて、生物学的領域は弱いと考えられる点が補完されなければならない。そして卒業生の活動分野面から国際的活動まで考慮した教育がもっと強化されなければならないと思う。

本論の題目である「統一思想に基づいた純潔学を定立」という課題は本当に易しい事ではない。この一編の小論によってまとめられる性質の課題ではない。学問の体系を備えるためには、概念整理だけではなく、学問の特性、研究方法、学問の分野、学問の内容、隣接学問との連携等、課題が一つや二つでない。本稿では、多くの制約上、辛うじて純潔学を定義し、純潔学の教育方向と内容を察する程度にとどまってしまった。これから上述した多くの部分を満たして補う研究が続けられなければならない。

〈参考文献〉

1. 国立国語研究院、『標準国語大辞典』(ソウル:斗山東亜、1999)。
2. 金ボンテ、「青少年純潔教育の方向と必要性」、韓国青少年純潔運動本部、『性教育理論と実際――青少年の愛と純潔』(ソウル:文化広場、2000)、pp. 9-27。
3. 金ソヒ、「子供達にコンドームを与えよう?」、『ハンギョレ21』337号(ソウル:ハンギョレ新聞社、2000.12.14)、pp. 74-77。
4. 具ソンエ、『具ソンエの性教育』(ソウル、石塔出版、1995)。
5. 文サンヒ、「統一思想から見た純潔学の理念と教育内容のための時事評論的研究」、『統一思想研究論叢』、第10集、(忠南:鮮文大学統一思想研究院、2002)。
6. _____、「家族崩壊予防のための青少年性教育方向」、2005、未刊論文。
7. 朴ジョンシン、『純潔その美しい話』(ソウル:振興、1998)。
8. 朴ヒョジョン、「純潔教育から人間の生の中の性教育へ」、韓国教育開発院、『教

育開発』128号(ソウル:2001.8)、pp. 92-96。
9.徐カプス、『私もたまにはポルノグラフィーの主人公になりたい』(ソウル:中央M&B、1999)。
10. 世界平和統一家庭連合、『原理講論』(ソウル:成和社、1995)。
11. _____、『祝福家庭と理想天国I』、文鮮明先生み言選集(ソウル:成和社、1998)。
12.文鮮明先生み言編纂委員会、『文鮮明先生み言選集』第66冊(ソウル:成和社、1988)。
13. _____、『文鮮明先生み言選集』第67冊(ソウル:成和社、1988)。
14. _____、『文鮮明先生み言選集』第220冊(ソウル:成和社、1996)。
15. _____、『文鮮明先生み言選集』第288冊(ソウル:成和社、2000)。
16. ソングァンソク、「中·高等学生のための純潔教育の内容と指導方法」、韓国青少年運動本部、『性教育理論と実際――青少年の愛と純潔』(ソウル:文化広場、2000)、pp. 219-235。
17. _____、「子女指導のための性と純潔価値観」、韓国青少年運動本部、『青少年純潔教育、その代案を捜してII』、教育資料第2集、未出版刊行物、pp. 12-22。
18. オテクヨン、「真のお父さまのみ言から見た絶対性(Absolute Sex)の意味」、鮮文大学神学部、『み言と神学』第7集、2001、pp. 97-116。
19. 李ベヨン、「儒教的伝統と変形の中の家族倫理と女性の地位」、梨花女大女性研究院、『女性学論集』、第12集、1995. 12、pp. 11-36。
20. 李相軒、『頭翼思想時代の到来――共産主義を超えて』(忠南:鮮文大学統一思想研究院、2001)。
21. 李ジェイル、「学問の基礎としての統一思想と純潔学の正体性」、『統一思想研究論叢』第10集(忠南天安:鮮文大学統一思想研究院、2004、pp. 149-171。
21. 李ジェホ、「純潔の概念と性の両面性、性文化」、韓国青少年純潔運動本部、『性教育理論と実際-青少年の愛と純潔』(ソウル:文化広場、2000)、pp. 185-208。
22. チャン·ヒョクピョ、「純潔教育の意義と方向」、釜山市教育委員会、『釜山教育』208号(釜山:1980. 4)、pp. 3-8。
23. ジョンソンヒ、『朝鮮の性風俗』(ソウル:カラン企画、1998)。
24. チァソンヒ、『男女大学生の性文化と性意識研究――純潔イデオロギーを中心に――』、大邱ヒョソンカトリック大学校大学院修士学位論文、1999.8。
25. 統一思想研究院、『統一思想要綱(頭翼思想)』(ソウル:成和社、1994)。
25. 韓国語辞典編纂会、『韓国語大辞典』(ソウル:現文社、1976)。
26. ホンクムジャ、「純潔運動を先駆ける大学推進」、鮮文大学大学発展推進委員会、『鮮文大教育改革課題研究報告書1』(忠南牙山:1997)、pp. 247-313。
27.増田善彦著/朱ジェワン·西岡マサユキ訳、『祝福家庭のための天一国生活倫理』(忠南牙山:鮮文大学出版部、2004)。
28. Lin、Ging-Derg、"*True Liberty from Sexual Revolution —— A Viewpoint of Unificationism* ——"、鮮文大学統一思想研究院、『新千年のビジョンと統一思想』、第11次国際統一思想シムポジオム統一思想研究論叢(忠南天安:1999)、pp. 48-63。
29. Moon, Sang Huy, *Pure Love Studies: Origin, Preliminary Outcomes, and Future Directions*, Dissertion sumitted in partial fulfillment of the requirements for the degree of doctor of education in the school of education, University of Bridgeport, Connecticut, 2004.
30. Otani、Akifumi、「統一思想と純潔教育の理念」、『統一思想研究』(忠南天安:統一思想学会、2000)第一号、pp. 66-82。
31. Panzer, Richard A., *After the Sexual Revolution*, Slideshow, (Westwood, NJ: Center for Educational Media, 1993).

註

1)Sang Huy Moon, Pure Love Studies: *Origins, Preliminary Outcomes, and Future Directions*, Dissertation sumitted in partial fulfillment of the requirements for the degree of doctor of education in the school of education, University of Bridgeport, Connecticut, 2004.
2)文サンヒ、"統一思想から見た純潔学の理念と教育内容のための時事評論的研究"、『統一思想研究論叢』第10集(忠南:鮮文大学統一思想研究院、2002)、pp. 187-229。
3)李ジェイル、"学問の基礎としての統一思想と純潔学の正体性"、『統一思想研究論叢』第10集(忠南:鮮文大学統一思想研究院、2004)、pp. 149-171。
4)大谷明史、「統一思想と純潔教育理念」、『統一思想研究』第一号(忠南天安:統一思想学会、2000)、pp. 66-82。
5)李相軒、『頭翼思想時代の到来――共産主義を超えて』(忠南天安、鮮文大学統一思想研究院、2001)。
6)文サンヒ、『朝鮮の性風俗』(ソウル:カラン企画、1998)、pp. 58-65。
7)Richard A. Panzer, *After the Sexual Revolution*, Slideshow (Westwood, NJ: Center for Educational Media, 1993), p. 1.
8)ジャンヒョクピョ、「純潔教育の意義と方向」、釜山市教育委員会、『釜山教育』208号(釜山:1980. 4)、pp. 3-8。
9)ホングムジャ、「純潔運動に音頭を取る大学推進」、鮮文大学大学発展推進委員会、『鮮文大教育改革課題研究報告書1』(忠南牙山:1997)、p. 257。
10)金ソヒ、「子供達にコンドームを与えよう?」、『ハンギョレ21』337号(ソウル:ハンギョレ新聞社、2000. 12. 14)、pp. 74-77。
朴ヒョジョン、「純潔教育から人間の生の中の性教育へ」、韓国教育開発院、『教育開発』128号(ソウル:2001、8)、pp. 92-96。
11)チァソンヒ、『男女大学生の性文化と性意識研究――純潔イデオロギーを中心に――』、大邱ヒョソンカトリック大学校大学院修士学位論文、1999、8。
12)これは筆者が1999年に某TV放送に出演した時、純潔に反対する討論者4人が一貫して主張する内容だった。私たちは純潔という用語が良いのに、あなた方は純潔という用語を嫌いだというなら純潔に代わる用語を提示しなければならないのではないかと要求すると、純潔反対論者たちは「その用語を私たちが代案を提示しなければならないのか?」と適切な返事ができず、呆気に取られた顔をした。
13)李ジェホ、「純潔の概念と性の両面性、性文化」、韓国青少年純潔運動本部、『性教育理論と実際-青少年の愛と純潔』(ソウル:文化広場、2000)、pp. 187-188。
14)筆者が2001年3月に某TV放送に出演した時、筆者の反対討論者として出た出演者と共同出演者たちは、筆者が「男女両性平等の純潔観はむしろ女性界で支持しなければならない内容ではないか?」という意見に皆同意した。初期に純潔運動に非常に反対した女性界でも、対話と討論を通じて次第に男女両性平等の純潔観を理解する雰囲気だと感じた。
15)国立国語研究院、『標準国語大辞典』(ソウル:斗山東亜、1999)、p. 3392。
16)韓国語辞典編纂回、『韓国語大辞典』(ソウル:現文社、1976)、p. 993。
17)ホンクムジャ、前掲、p. 257。

18)朴ジョンシン、『純潔その美しい性の話』(ソウル:ジンフン、1998)、pp. 26-29。
19)朴ジョンシン、『純潔その美しい性の話』ソウル:ジンフン、1998、pp. 64-85。
20)具ソンエ、『具ソンエの性教育』(ソウル:石塔出版、1995)、pp. 172-174。
21)ソカプス、『私もたまにはポルノグラフィーの主人公になりたい』、ソウル:中央M&B、1999、pp. 232-235。
22)李ジェホ、前掲、pp. 190-195。
23)ここで言う「み言」とは、統一思想の創始者である文鮮明先生が弟子たちに与えてくださった教えを意味し、『文鮮明先生み言選集』、『主題別み言選集』などに収められている。
24)増田善彦著、朱ジェワン、西岡マサユキ訳、『祝福家庭のための天一国生活倫理』(忠南牙山:鮮文大学出版部、2004)、pp. 214-217。
25)世界平和統一家庭連合、『祝福家庭と理想天国I』、文鮮明先生み言選集(ソウル:成和社、1998)、p. 471。
26)Ibid. p. 473。
27)文鮮明先生み言編纂委員会、『文鮮明先生み言選集』第67冊(ソウル:成和社、1988)、pp. 55-84。
28)文鮮明先生み言編纂委員会、『文鮮明先生み言選集』第66冊(ソウル:成和社、1988)、pp. 220-229。
28)2001. 1. 13、「神様王権即位式」におけるみ言、
29)文鮮明先生み言編纂委員会、『文鮮明先生み言選集』第288冊(ソウル:成和社、2000)、pp. 281-285、
30)文鮮明先生み言編纂委員会、『文鮮明先生み言選集』第220冊(ソウル:成和社、1996)、pp. 119-156、
31)世界平和統一家庭連合、『祝福家庭と理想天国I』、文鮮明先生み言選集(ソウル:成和社、1998)、p. 39-54。
32)Ibid. 、pp. 51-66。
33)文鮮明先生み言編纂委員会、『文鮮明先生み言選集』第220冊(ソウル:成和社、1996)、pp. 119-156。
34)世界基督教統一神霊協会、『原理講論』、(ソウル:成和社、1995)、pp. 86-89。

35)統一思想研究院、『統一思想要綱(頭翼思想)』(ソウル:成和社、1994)、pp. 470-474。
36)統一思想研究院、『統一思想要綱(頭翼思想)』(ソウル:成和社、1994)、pp. 236-238。
37)文サンヒ、前掲、p. 190。
38)李ジェイル、「学問の基礎としての統一思想と純潔学の正体性」、『統一思想研究論叢』第12集(忠南天安:鮮文大学・統一思想研究院、2004)、p. 155。
39)金ボンテ、「青少年純潔教育の方向と必要性」、韓国青少年純潔運動本部、『性教育理論と実際』(ソウル:文化広場、2000)pp. 9-27。
40)ソンガンソク、『中高生のための純潔教育の内容と指導方法』、韓国青少年純潔運動本部、『性教育理論と実際』(ソウル:文化の広場、2000)、pp. 219-235。
41)ソンガンソク、「子女指導のための性と純潔価値観」、韓国青少年純潔運動本部、『青少年純潔教育、その代案を捜してII』教育資料第2集、pp. 12-22。
42)大谷明史、前掲、pp. 66-81。
43)文サンヒ、前掲、pp. 203-225。
44)文サンヒ、「家族崩壊予防のための青少年性教育方向」、2005年。未刊行論文、pp. 6-17。
45)統一思想研究院、『統一思想要綱(頭翼思想)』(ソウル:成和社、1994)、pp. 801-821。

46)ソンガンソク、前掲、p. 227。
47)統一思想研究院、前掲書、p. 172。
48)ソンガンソク、前掲、p. 225。
49)金ボンテ、前掲、pp. 25-26。